

ホタテ浮遊幼生の付着が盛期に!

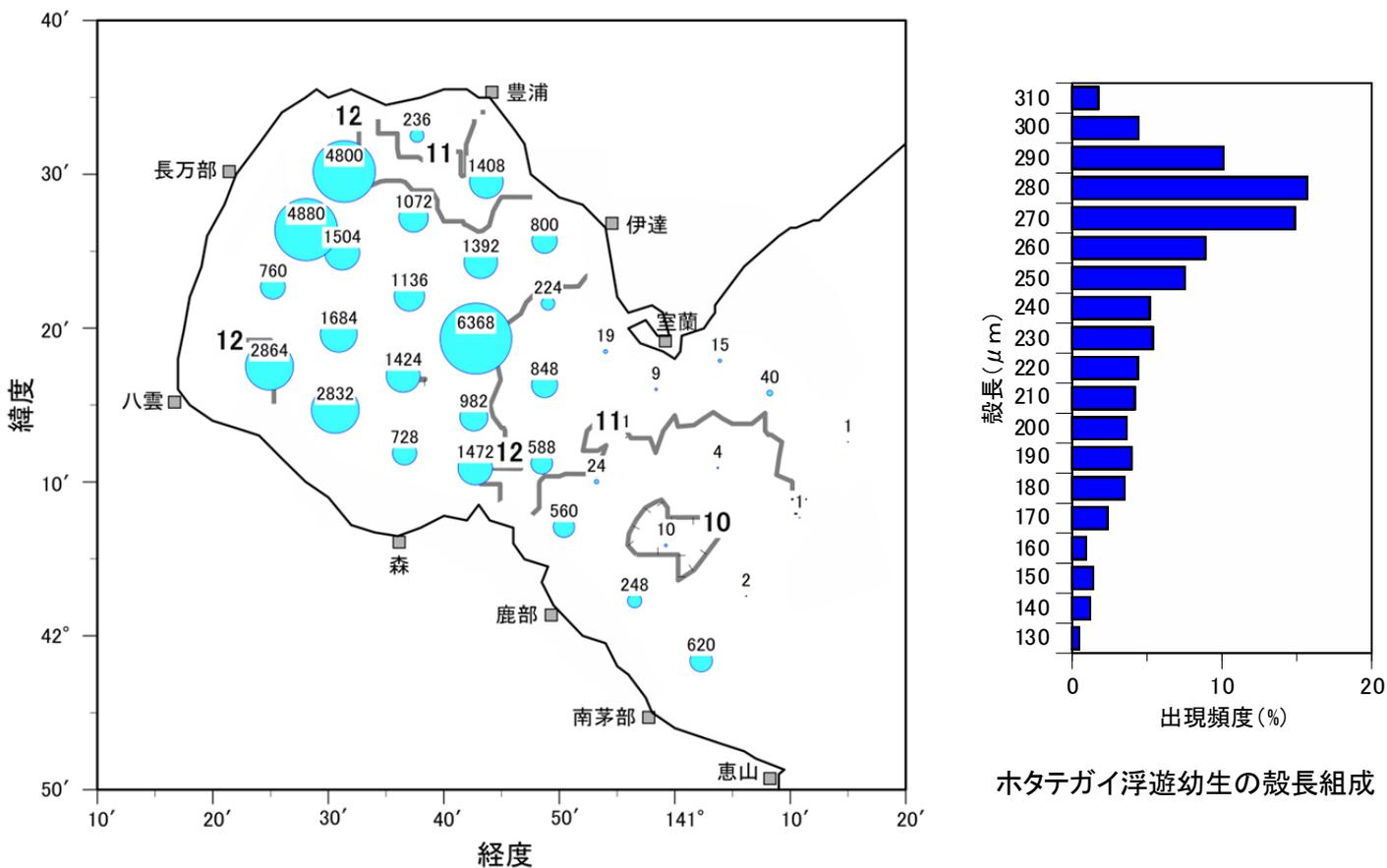


図1 (左)ホタテガイ浮遊幼生分布密度(○印, 個体数/トン)と10m 深水温(灰色線)の水平分布。(右)全調査地点で平均したホタテガイ浮遊幼生の殻長組成。調査期間: 2016年6月7~8日。

【概要】

2016年6月7~8日に、噴火湾内外の海域でホタテ浮遊幼生調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。ホタテ浮遊幼生は噴火湾沖合では全域、湾外では渡島側を中心に出現しています(図1左)。殻長組成では、270~280 μm の割合が最も高いことから(図1右)、ホタテ浮遊幼生の付着盛期になっています。なお、湾内外の10m 深水温は約10~12℃であり、例年よりも約1~2℃高くなっています。

深度10mにおける流速ベクトルの水平分布を図2に示します。湾内には、前回の調査時と同様、時計回りの渦が形成されています。

ホタテ浮遊幼生調査は今回で終了いたします。

(連絡先: 函館水産試験場 西田 [TEL:0138-83-2893](tel:0138-83-2893))

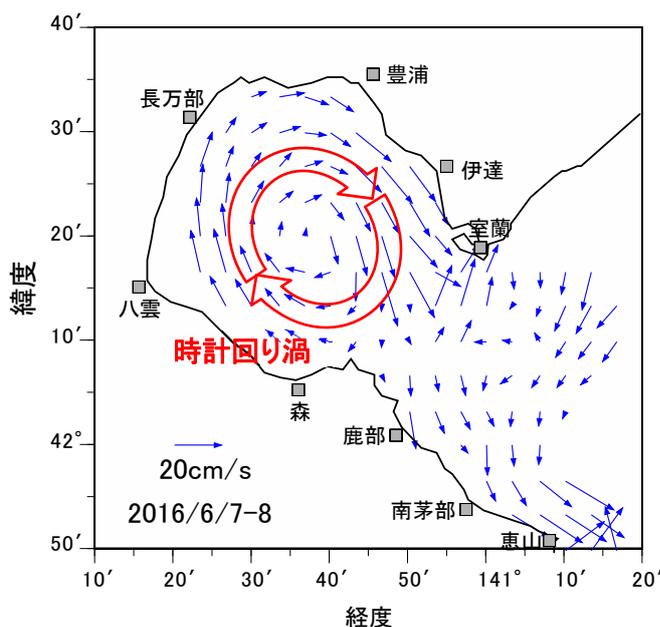


図2 深度10mにおける流速ベクトルの水平分布

この情報は以下の函館水試ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/section/zoushoku/tpc053000000081x.html>